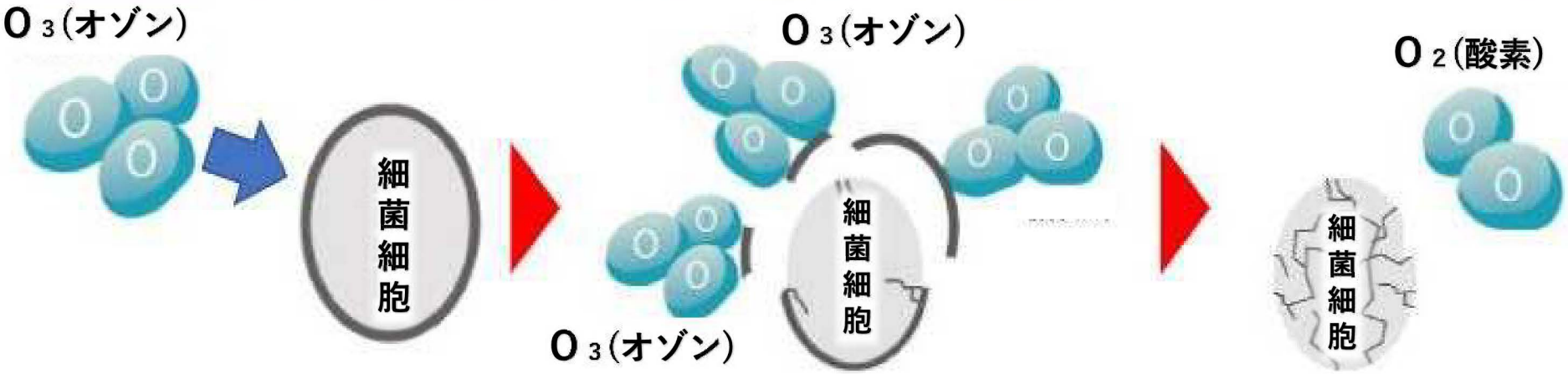
救急車搭載商品

医療現場で求められる安全水準テストを何度も行い、消防庁におけるトライアルを経て、東京都内23区全台の救急車へ導入されております。

現在は全国500台以上の救急車に導入されており、今後も塩素に代わる除菌対策の一つとして、エアバスターに期待が寄せられております。

薬剤に頼らない除菌・脱臭



この作用を「不活化」または「不活性化」と呼びます。

オゾン脱臭器

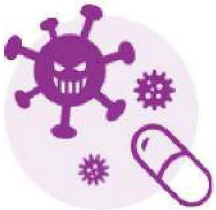
「エアバスター」救急車搭載モデル

- ☑インフル・ノロ等あらゆる菌を分解
- ☑タバコ臭・介護臭は顕著に分解
- ☑空清ができない「付着菌」分解
- ☑花粉も 10 秒で分解
- ☑ゴキブリ・ダニを寄せ付けない
- ☑交換するもの一切なし

日本介護協会認定商品

【オゾンの効果】

【オゾンの優位性】



耐性菌を作らない。
（他の薬剤では耐性菌ができやすい）

薬剤などの備蓄・補充・保管・管理が不要

低ランニングコストである。
（電気代だけ）

拭き残しなく、短時間で除菌が可能である。

消毒剤の噴霧は不完全な消毒や、ウィルスの舞い上がりを招く可能性があり、また消毒実施者の健康障害につながる危険性がある。

オゾンガスの安全性について

オゾン濃度が人体に及ぼす影響（ppm）

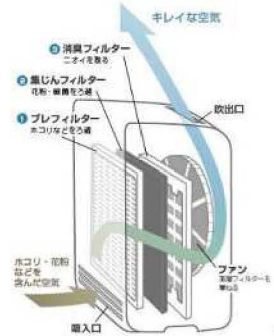
0.01～0.02	多少の臭気を覚える場合もある
0.02～0.05	特有のニオイがわかる
0.06	慢性の肺疾患の患者にも影響はない
0.1～0.3	鼻・喉に刺激を感じる
0.5	オゾン環境に労働するものに慢性気管支炎等が増える
0.6～0.8	肺痛、咳、呼吸困難肺機能の低下等を生じる
1.0～2.0	疲労感、頭痛等を一時間～二時間で生じる
5.0～10	脈拍増加、体痛、麻酔状態肺水腫をおこす
15～20	小動物は二時間以内に死亡する
50	人は一時間で生命が危険な状態となる

◎オゾンガスは米国 ACGIH、厚生労働省により 0.1ppm 以下が安全濃度と規定されている。

最高レベルの安全性が求められる救急現場でも、弊社の商品を導入頂いております。

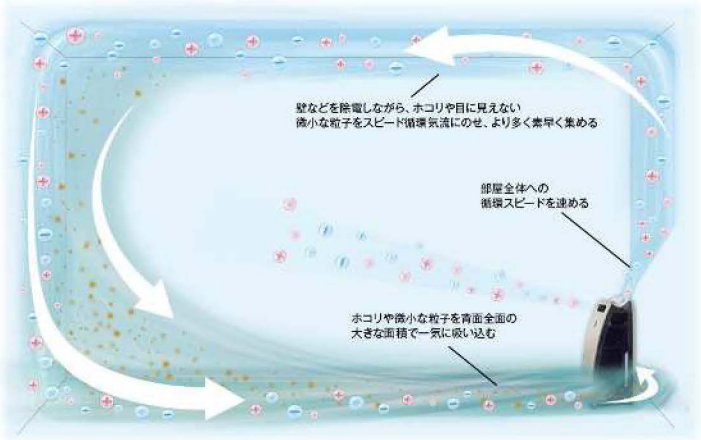
空気清浄機との違い

〇エアバスターから発生したオゾンは　積極的に『浮遊・付着』している菌・ウィルスを分解、不活化します。



〇一方、空気清浄機は、周辺空気を強力に集塵し、　フィルターに埃や菌を張り付かせて空気を出します。その周りに浮遊している菌・ウイルスに効果を発揮します。

つまり、空気清浄機にはできない「付着菌」を分解できるのが「エアバスター」の最大の特徴です。



KI-EX100イメージ図

〇オゾンが空気清浄機やエアコンのフィルター内まで綺麗にすることができますので併用をお勧め致します。

弊社商品は、以下の大学や研究機関で効果が実証されており、産官学連携商品として自信を持って販売していただけます。

Smart and Human 摂南大学	摂南大学	オゾン水変異原性分析
武庫川女子大学	武庫川女子大学　医学部	農薬除染効果分析
近畿大学 KINDAI UNIVERSITY	近畿大学　薬学部	オゾンガスによる抗がん剤分解テスト
大阪国際がんセンター	大阪国際がんセンター	高リスク医薬品調整キャビネットフィールドテスト
同志社女子大学	同志社女子大学　薬学部	オゾン水による抗がん剤分解テスト
北里大学	北里大学　医学部	新型インフルエンザウィルス不活化テスト
大阪大学 OSAKA UNIVERSITY　大阪大学 OSAKA UNIVERSITY	大阪大学　医学部	オゾン水によるノロウィルス不活化
大阪大学医学部附属病院 Osaka University Hospital	大阪大学医学部付属病院　未来医療	再生医療 アイソレーターバスボックス除染
滋賀医科大学	滋賀医科大学　医学部	オゾンガスによる臭気・ホルムアルデヒド分解テスト
静岡県立大学 UNIVERSITY OF SHIZUOKA	静岡県立大学　医学部	オゾン水による手洗い効果
AMED 日本医療研究開発機構 Japan Agency for Medical Research and Development	AMED国立研究開発法人 日本医療研究開発	高リスク医薬品安全キャビネット共同開発
清華大学 Tsinghua University	精華大学　工学部	オゾン発生体共同開発
経済産業省	経済産業省　医療福祉室	医工連携として 高リスク医薬品安全キャビネット
株式会社 互恵会 大阪回生病院 Gokeikai Osaka Kaisei Hospital	大阪回生病院	オゾン水によるアレルギー／アトピー性皮膚炎の緩和
長崎大学 NAGASAKI UNIVERSITY	長崎大学医学部	オゾンガスによる動物ウィルスの不活化
防衛装備庁 ATLA	防衛省　技術研究本部	オゾンガスによるホルムアルデヒド除染 代替の可能性
東京工業大学 Tokyo Institute of Technology	東京工学大学　工学部	高濃度オゾン発生体の開発
	大阪国際がんセンター	高リスク医薬品調整キャビネットフィールドテスト

導入いただいた事業所様等で希望が御座いましたら、
ポスター・ステッカーをご用意致します。